

み言葉の礼拝

ともに集う

前奏とともに司式者、奉仕者は入堂し、着席する。

一同立つ。それぞれの唱和の後、沈黙の時をおいてもよい。

司式者 はじ 初めに、せ かい やみ 世界が闇であったとき、かみ い 神は言われた。
「ひかり光あれ」

会衆 ひかり そして、光があった（創 1:1-3）

司式者 はじ 初めに、しず 静けさのなか 中で、ことば 言は神とともにあった

会衆 ことば 言は、かみ 神であった（ヨハネ 1:1）

司式者 かみ 神は、そのひと 独り子を世にお遣わしになった

会衆 かた その方によって、わたしたちがい 生きるようになるためである（Iヨハネ 4:9）

悔い改めの祈り

司式者 かみ 神はそのひと 独り子をお与えになったほどに、よ 世を愛してかみ くださいました。この神の愛
こた に応えるため、みずか 自らを省み、かえり ともにつみ 罪の赦しをゆる 祈りましょう

ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 あわ 憐れみ深い神よ、わたしたちは、ぶか してはならないことをし、かみ しなければならないこと
をおち せず、ことば 思いと、おこな 言葉と、とな 行いによって、びと あなたと隣り人に対しておお 多くのつみ 罪を犯し
ています。どうかつみぶか 罪深いわたしたちをお赦しください。ゆる 新しい命にあたら 歩み、いのち み心に
したが 従い、さか み栄えを現すことがあわ できますように、すく 救い主イエス・キリストによってぬし お願
いいたします アーメン

一同立つ。次の歌を歌いまたは唱える。

大栄光の歌

たか いと高きところには神に栄光、かみ 地にはえいこう み心にかなう人びとに
へい 平和がありますように。

ぜん 全能の父、ちち 天の王、てん 主なる神よ、おう 主をしゅ 拝み、かみ 主にしゅ 感謝し、

しゅ 主の栄光をほめたたえます。

ちち 父の独り子・ひと 主イエス・キリスト、よ 世のつみ 罪を除く神のかみ 小羊、

しゅ 主なる神よ、わたしたちにあわ 憐れみをお与えください。

ちち 父の右に座しておられる主よ、

わたしたちのいの 祈りを受け入れてください。

しゅ イエス・キリストよ、せい 主のみ聖、しゅ 主のみ王、おう 主のみ聖霊とともに、

ちち 父なる神の栄光のうちに、もつと 最も高くおられます アーメン

特 禱

司式者 ^{しゅ} ^{みな} 主は皆さんとともに
会衆 **また、あなたとともに**
司式者 ^{いの} 祈りましょう

ここで当日の特禱を用いる。

ともに聞く

司式者 ^{せいしょ} ^{ことば} ^き 聖書のみ言葉を聞きましょう
会衆は着席する。

〈第1朗読〉

朗読の前に「第 1 の朗読は 一 書第 一 章 一 節から」と言い、朗読後、「第 1 の朗読を終わります」と言う。

〈詩編〉

第 1 朗読に引き続いて定められた詩編を聖歌隊が歌う。栄光の歌は用いない。

〈第2朗読〉

朗読の前後は、第 1 朗読にならう。
次に一同立つ。ここで聖歌を用いてもよい。

〈福音書〉

朗読者または司式者は福音書を朗読する。朗読の前に「一による福音書第一章一節から」と言い、朗読後、「一による福音書を終わります」と言う。
朗読者が聖職の場合には、以下の福音書朗読前後の唱和(祈祷書 166 ページ)を用いることができる。

朗読者 ^{しゅ} ^{みな} 主は皆さんとともに
会衆 **また、あなたとともに**
朗読者 ^{せい} 一 ^{ふくいんしょだい} による福音書第 ^{しやう} 一 ^{せつ} 章 ^か 一 ^{しる} 節以下に記された
主イエス・キリストの福音。主に栄光
会衆 ^{しゅ} ^{えいこう} 主に栄光がありますように

福音書の朗読が終わったとき次のように歌いまたは唱える。

朗読者 ^{しゅ} ^{かんしゃ} 主に感謝
会衆 ^{しゅ} ^{かんしゃ} 主に感謝します

説 教

使徒信経

一同立つ。

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。
また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。
また、聖霊を信じます。聖なる公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの平和です
会衆 わたしたちは主のみ名によって出会い、主の平和を分かち合います
司式者 平和の挨拶を交わしましょう
ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉が聖句を用いてもよい。

司式者 主の救いのみ業に感謝し、ともに賛美を献げましょう
あらかじめ集められた信施(献金)を献げる。このとき、音楽による賛美を献げてもよい。
信施を献げるときは、以下の言葉を唱える。

司式者 すべてのものは主の賜物
一同 わたしたちは主から受けて主に献げたのです アーメン

ともに祈る

ここで司式者または会衆の代表者は、適当な言葉で代祷を献げる。(週報参照)

主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 主よ、憐れみをお与えください
会衆 キリストよ、憐れみをお与えください
司式者 主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

み心が天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をお赦ください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救ください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン

感謝

司式者 ともに祈りましょう

一同 すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子との
出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、み名
をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたしたちが
すべての人びとと分か合うことができますように。そして聖霊の導きにより、あな
たの光でこの世を照らす働きにあずからせてください。また与えられた希望を変
わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、
主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

主とともに行く

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたしたちとともにありますよ
うに。(Ⅱコリント 13:13)

会衆 アーメン

派遣の唱和

一同立つ。

司式者 ハレルヤ、主とともに行きましょう

会衆 ハレルヤ、主のみ名によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

司式者と奉仕者は退堂する。

短い報告、案内等の後、後奏とともに会衆は退堂する。